

# すくわくプログラム活動報告書

## 探究活動の実践

### 1 歳児

園庭にあるみかんの木に興味を示し、大きくなったりみかん色に変化していく様子を楽しんで見ていた。散歩で拾ったどんぐりや落ち葉を大切に持って帰り、砂遊びのカップや皿に入れて食べ物に見立てる遊び、購入した車の中に入れて配達する遊び、大事そうに自分専用の宝箱に発展させる遊びをしていた。

四肢を使った遊びになかなか進まなかったが、イスを購入した事で並べる、乗る、降りる、ジャンプする、渡ると言った様々な動きが見られるようになっていった。

2 歳児－公園で拾ってきたどんぐりや、園庭内の草花や実を使って見立て遊びができるよう、砂場用の玩具だけでなく、外でも遊べる紐をつけた箱や段ボールのお家（お店）などを用意し、入れたり運んだりして遊べるようにした。どんぐりや葉っぱなどは砂のケーキのトッピングになり、これはいちご、みかんと子ども達のイメージがどんどん広がり、注文した物（ジュースやごはんなど）を作ることにより、自然と子ども同士でお店屋さんごっこを楽しむようになっていった。

幼児－見立て遊びを楽しめるよう、カップやペットボトル等の道具を準備した。使いたい道具からどのように使ったら使いやすいか、自分達で考える機会を作っていき、試行錯誤していった。また、出来た喜びを友だちと共有しながら楽しむことで他のアイデアへと広がっていった。『わたしのワンピース』の題材では様々な場所に置いていき、自然物の色や模様に興味を示していた。

活動の様子  
《1歳児》

保育園の園庭にみかんの実が実りました。大きなみかんに興味津々な子ども達。季節の変化とともにみかんの色が変わっていく様子を楽しみ、収穫してみんなで食べました。



みかんや落ち葉を拾い集めて皿に飾ったり、盛り付けてままごと遊びにしたり。気付くと、コンビカーの中にまで入れて配達していました。



移動式のカラフル椅子は子どもが抱えて好きな所に移動させられる大きさ。子ども達が好きなように遊び込めます。



≪ 2 歳児 ≫

園庭のみかんだけでなく、近隣との交流のなかで季節感のあるカリンをもらいました。「おいね!」「これかけたらおいしいよ」と子ども達なりにアレンジして遊んでいました。匂いを嗅いだり色や重さや大きさにも興味が広がりました。



園庭には子ども達が見つけたどんぐりや、園周りにある草木の葉っぱやお花を使って「おいしくな〜れ」「少しかける?」日常生活の会話が遊びのなかから聞こえてきます。みかんの葉っぱにどんぐりを通したい。子ども達のやってみたいは面白いです。

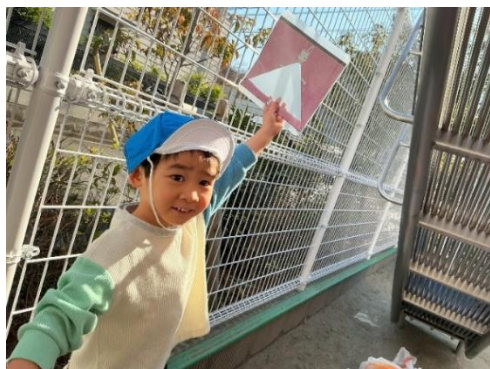


雪は何て魅力的なんだろう!丸めてかためたらボールみたい。踏むとざくざく音もするね。汽車ポッポの上に大きな氷を置いて「おおきなおさら」雪でアイスを作りアイス屋さんにはぎわっていました。

《幼児》



虫探しをしたり、収穫したさつまいもを洗うことで身近な自然物の観察をしました。そこから図鑑を見たり、調理をする等に発展し、興味を深めていました。



わたしのワンピースの模様探しをして、身の回りには色々な色や形がある事に気付きました。気付いた事や感じたことを友達と共有することで、新たな気づきに繋がっていました。



泥や砂・雪を使って遊びました。雪は色を付けてジュースに見立てたり、冷たさや歩いた時の感触を楽しんでいました。砂はどうやったら上手くペットボトルに入れられるかを試行錯誤していました。



## 振り返り

1歳児—保育士が遊びを設定した環境に子どもが入り遊びが広がり、遊ぶ子どもの姿を見てどのような環境の変化が今の子どもに合っているのか。必要なものは何か、子どもが望むものは何かを考えて提供する楽しさを子どもと共に味わうことが出来た。子どもの発達により環境設定が変わってくるが、個々に合わせて設定することの大切さや柔軟性も必要になってくるので保育士の工夫や思考が求められると感じた。

2歳児—指先が器用になったことで、小さい実や花、どんぐりなど拾ったり摘んだり集めることが好きな2歳児。自分で見つけた物をうれしそうに見せたり、大事に握りしめたり、時にはそっとポケットに。自分用のバッグを持つとどんぐりが袋いっぱいパンパンになり、重くても大事なお土産は自分で持つ。どんな場所でどんな自然物に出会えるか、子ども達が何に興味を持ちまた子どもの声から遊びを設定したり展開していくことが大切だと思う。子どもの様子や発達などを踏まえ、遊びを通して様々な経験を今後も積んでいけるようにしたい。

幼児—自分だけで考えるより、友達と考える事で発見が多くなり、楽しさが増している様子があった。保育者が全て手解きするのではなく、考えたり発見する楽しさを与えられる環境を準備していくよう意識していった。異年齢保育という事でお互いに良い刺激となり、さらなる気付きにつながったように感じた。四季の自然物との触れ合いを大切にし、子どもが気になった事や興味のある事をすぐに調べていける環境を今後も作っていく。